

設計条件

1 トイレ

(1) リニューアル整備の際の標準タイプ

区 分	だれでもトイレ				男子		女子
	洋式便器	オスト メイト	ベビ-チア [®]	ベビ-ベッ [®]	大	小	
公 園 ト イ レ	1	1	1	1	1	1	1

※広さの目安は15㎡程度とする。

(2) 設計上の留意点

①「東京都福祉のまちづくり条例」に基づき、設計する。

(施設整備マニュアル(東京都)参照)

②トイレの構造については、鉄骨造又はRC造を標準とする。但し、同程度の機能を有し、維持管理も同程度の場合はその限りでない。

③風通しをよくして閉鎖性のないように工夫するとともに、隣接する道路や公園からトイレ内及びトイレ通路が丸見えにならないよう、目隠し(パネル・植栽等)を検討する。

④自然光を活用し、日中は照明を使用しない構造とすること。

⑤建築確認申請の際に支障がないようにすること。

(3) 設備

①給水装置及び給水設備

水理計算により必要な給水管径を定めるとともに、加圧装置の使用は避けること。

衛生器具については下表を標準とする。

衛生器具の種類	給水方式
大便器	直結式※
小便器	直結式
手洗器・洗面器	直結式

※既存給水管の改造ができない場合や利用人数が少ない場合等は、タンク式としても構わない。

②洗浄方式

衛生器具の種類	洗浄方式
大便器	電子制御方式を用いないレバー方式とする。ただし、だれでもトイレ等で、レバーによる操作が不適當である場所については電子制御を用いて構わない。
小便器	対向センサーによる自動洗浄とする。
手洗器・洗面器	定量式蛇口又は対向センサーによる自動洗浄とする。

	定量式についてはプッシュ式が望ましい。
--	---------------------

③止水栓

器具の故障に対応するため、給水管を各ブースへ分岐したのち、建物に入る手前で止水栓をそれぞれ設置する。

④清掃用水栓

原則として、トイレの各ブースに1箇所以上清掃用水栓を設置する。ただし、ホースによる取り回しに支障がないと判断できる場合は必要に応じて増減できるものとする。

清掃用水栓は、第三者が利用できないよう、ハンドル着脱式とする。

⑤排水設備

- ・衛生器具の排水設備及びトラップ等はパイプスペース等に隠ぺいすること
- ・大便器の排水管は直管とし、曲がり部には柵または掃除口を設ける。
- ・手洗い器のトラップは、パイプスペース内へ入れられるPトラップ式とする。
- ・器具の故障に対応するため、なるべく要所に止水栓を設置しておく。
- ・配管は修理のことを考慮し、配管スペースにまとめる。

⑥トイレトペーパー

- ・個室ブースにはトイレトペーパーを設置する。
- ・トイレトペーパーはカギ付き2連タイプのものとする。

⑦照明

- ・照明はLED式とし、自動点滅器を用いて点灯するものとする。

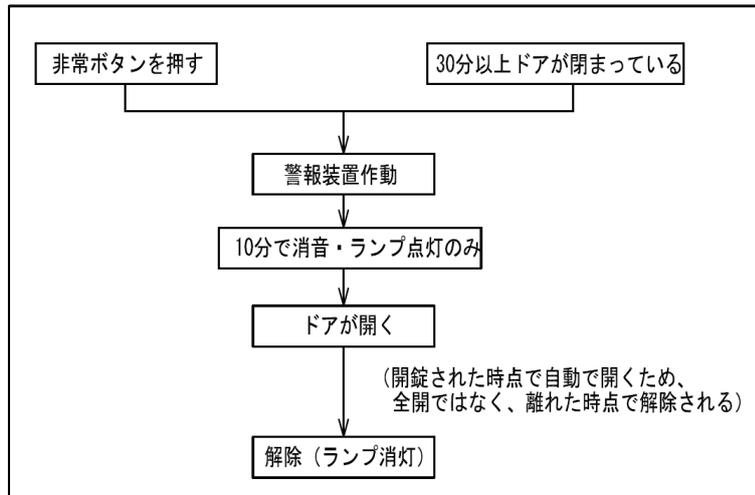
(4) 震災対応型トイレ

災害時に使用できるよう、排水管直結式のマンホール型のトイレを設置することが望ましい。この際、使用するテント等の収納場所を確保すること。

(5) 警報装置

警報装置については、メーカー標準のまま使用すると警報音に対する苦情や、いたずらによる誤報が生じるため以下の仕様を標準とする。これはドアが開かずに警報装置が作動している状態が最も緊急性の高い状態であり、どこへ通報しても速やかな対処が必要であると考えられるためである。

ドアスイッチ作動フロー



(6) ピクトサイン

トイレに設置するピクトサインは下図を標準とする。

乳白アクリル W200×H200×t5

■ 青(C100+M30近似色) 白抜き



■ 赤(M80+Y100近似色) 白抜き



■ 薄い紫(C50+M50近似色) 白抜き

■ 赤(M80+Y100近似色) +は白抜き

■ 文字:黒(K100)



乳幼児・オストメイト用の設備を備えています

点字シール(タモクチキトイレ)



震災対応型

このトイレは地下に
ピット室を設けており、
災害時には便槽として
使えるようになります。

※震災対応型ピクトはピット有の場合のみ

(7) 予算

墨田区での他トイレの実績を踏まえて、2,000万程度を上限とする。(諸経費込み。)

2 サイン

(1) 園名板

墨田区公共サインマニュアル及び震災園名板を参考に定める。大規模公園等で独自のデザインを用いる際はこの限りではないが、多国語表記（園名及び住所については4か国：日本語・英語・中国語（簡体字）・韓国語、その他は2か国：日本語・英語）及び利用ルール等のピクトや内容については統一を図ること。



(2) 樹名板

墨田区では、一般的にアボック社製の既製品の樹名板を採用している。